

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

実施日：令和3年9月25日

公表：令和4年1月4日

児童ルームたちキッズ 児童発達支援

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	5	・グループに分けたり 活動内容を分ける事で活動 しやすい様に考慮している	・構造上空間が分断され、スペースに 十分な広さがなく死角もできやすい →怪我のないように職員配置に 気を付けている ・もう少し広い空間だと支援のしやすさ 支援方法も広がるのでありがたい
	2	職員の配置数は適切である	7	2		・職員体制に差がある
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境 になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業 所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配 慮が適切になされている	3	6	・子どもたちが使用する靴箱や 棚などは刺激物を減らし 分かりやすい環境になっている ・視覚支援は現段階では少しづつ取 り入れている	・子ども用トイレや手洗い場の数が 増えると排泄指導がスムーズになる →時間差での排泄指導を心掛けている ・階段の段差が高く低年齢児には転倒リスクがある 為心配
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっ ているか。また、子ども達の活動に合わせた空間と なっている	7	2		・過ごしやすい環境にはなっているが 建物の構造上ドアの開閉などに多少の リスクがある →怪我のない様にスタッフの配置を 心掛けている
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と 振り返り）に、広く職員が参画している	9	0	・職員会議などで業務について 話す機会が増え取り組み やすくなった	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業 所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	9	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果 を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、 その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、 事業所の会報やホームページ等で公開している	8	1		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善 につなげている	8	1		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保 している	9	0	・研修日を設けたことで研修が 以前よりも行いやすくなった	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニー ズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計 画を作成している	9	0		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化 されたアセスメントツールを使用している	7	2		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドライン の「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援 （本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地 域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な 項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内 容が設定されている	9	0		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	9	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	・気になる点は職員間の中でその都度話すようにしている ・完全ではないがほとんどが役割分担できている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	3	・気になる点は職員間の中でその都度話すようにしている ・朝礼ミーティングにて情報共有、伝達ができている	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0		
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	0		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	0		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				・医療ケア児はいません
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				・医療ケア児はいません
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	・コロナも影響もあり保育所訪問はおこなっておらず電話にて連携をとっている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	3	・必要書類(情報提供書)の提出をおこなっている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	3		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	9		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	1	・定期的に子ども部会に参加している	
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	・送迎時に様子を報告したり、家庭での様子を聞いたり情報共有はできていると思う		

	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	1	8		・取り入れたいと考えている ・ペアトレーニングの内容とは…研修の機会があれば受けたい
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	・契約時に伝えていると思う	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	9		・現在コロナの影響もあり実施が難しいがおこなえると保護者同士の情報交換の場になると考えている
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	・苦情解決の窓口を設定してある	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	・毎月のお便り発行でお知らせしている	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	1		
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0		・定期的におこなっているが避難導線が1か所なので不安な点がある
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	1		
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	0		
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	・朝礼での報告と共に不在のスタッフには記入用紙を閲覧できるようにし、全体で周知できるようにしている	
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0		
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9	0		